

# 市民 議会 行政 の緊張ある 関係づくり - 不断の努力が町の活性化に -



小金井で元気に！小金井を元気に！

# 五十嵐京子

通信  
第44号

元小金井市議会議員

2017年2月発行 五十嵐京子を支援する会

## 小金井市議会の課題

議会と市長は市政運営の両輪と言われるように、議会には執行権はありませんが、条例制定や予算の可否を決める権限があり、大きな力を持っています。

小金井市政の長い間の課題であったごみ焼却場の問題がようやく解決の道に進んでおり、小金井市と国分寺市と日野市の三市で焼却場の運営をすることが決まり、日野市で建設が進められています。ごみ焼却場建て替え問題の発端は、昭和六十年の市議会が出した一枚の決議でした。これにより近隣市との信頼関係を失い、小金井市は十年にも及ぶ混乱へと突き進むことになったのです。また、武蔵小金井駅南口は現在第一地区の再開発が完成し、広場が確保されていますが、中央線の高架事業と共に進められたこの再開発も小金井市議会が予算を通さず、混乱した時がありました。第二地区の再開発の工事が始まりました



このように、市議会が原因となって市政が混乱したことが何度かあります。だからこそ市民は市議会の活動をよく見ていく必要があるのです。

## 定数24名は適切か？

平成9年と11年に各1名減となり、現在の24名になりました。議員定数は議員提案の議案として提案され、採決されます。この十二月議会でも2名減が提案されましたが、過半数を得ることはできず否決されました。

議員は市民の声の代弁者ですので、費用のことだけで減らすべきではないと考えますが、小金井市は様々な分野において、審議会の公募市民を増やし、市民の意見は格段に市政に反映されやすくなっています。効率的な議会運営も必要であり20名まで削減しても良いのではと考えます。

## 政務活動費の問題

近年各市で問題のある議員の政務活動費の使い方が取り上げられ、多く報道されました。小金井市議会では、毎月一人当たり3万円が会派の活動のための調査費や研究

が、かつての  
ような混乱が  
なければもっ  
と早く進んで  
いただろうと  
思われます。

費などのために支給されます。かつて私は改革連合という会派に所属していましたが、残金は最後に清算し、市に返金をしております。

現状、小金井市議会ではかなり厳しくチェックされていますが、金額が適正なのかは常に見直す気持ちで考え、使われている政務活動費は公開していくことは重要です。

## 議会基本条例の設置

昨年小金井市議会では、数年の検討を重ねた結果、議会基本条例を制定、その中で超党派での議会報告会も開催することになりました。議会の活動をできるだけ公開し、市民にオープンにするための努力はしなければなりません。

なおかつ、深夜議会の全廃など効率的な議会運営を常に求める必要があります。

## 行政と市民との協働

小金井市には平成23年から10年間の期間を対象にした最上位計画「第4次基本構想」という計画を持っており、市が進むべき方向性を示しています。この基本構想は「小金井しあわせプラン」と名付けられ、サブタイトルは「みどりが萌える・子供が育つ・きずなを結ぶ 小金井市」とつけられました。